

市川市立福栄中学校 令和7年度 学習の指針

教科

国語科

学年

1年

I. 学習の目標

国語で「理解し表現する資質・能力の育成」を通し、「自主・自立」を達成する基盤づくりを行う。

考え方や心情を読み取る力や語彙を身に着ければ自分の考えを正確に伝えることができる。その能力を生かすことで、問題を自力で解決する事ができ、「自主・自立」の達成に繋がる。

① 何を理解しているか、何ができるか → 国語による理解力や表現力を育成し、伝え合う力、豊かな言語感覚を養うために、系統的な学習を意図して教材の目標やねらいを明確にし、言葉による見方・考え方をはたらかせて、生徒が自ら学び、自ら考える力を身につける。

② 理解していること・できることをどう使うか → 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、多様な話題・内容を取り上げた学習の中で自ら「問い合わせ」をもち、課題を発見し、考え、表現し、伝え合う能力を育成する。

2. 学習計画

| | 学習内容 | 学習のねらい |
|-----|--|--|
| 1学期 | <ul style="list-style-type: none">・ふしぎ・桜蝶・お気に入りの一品を紹介する・文法の小窓1　・言葉の単位・自分の脳を知っていますか・資料から得た根拠をもとに意見文を書く・漢字の広場1　・漢字の部首・日本語の音声　・ベンチ・漢字の広場2・画数と活字の字体・材料を整理して案内文を書く | <p>【詩】事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>【表現】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。</p> <p>【文法・語句】単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深める。</p> |
| 2学期 | <ul style="list-style-type: none">・持続可能な未来を創るために——人の暮らし方を考える／「エシカル」に生きよう・森には魔法つかいがいる・文法の小窓2　・文の成分【書く】・根拠を明確にして意見文を書く・広告の情報を考える・昔話と古典・物語の始まり・故事成語・蜘蛛の糸・河童と蛙・オツベルと象 | <p>【知識・技能】音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムをとおして、古典の世界に親しむ。</p> <p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none">・「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。 |
| 3学期 | <ul style="list-style-type: none">・言葉の小窓2　・日本語の文字・子どもの権利・漢字の広場3　・漢字の音と訓・言葉がつなぐ世界遺産／地域から世界へ・読み手を意識して報告文を整える・文法の小窓3・単語のいろいろ・漢字の広場4　・熟語の構成・四季の詩・少年の日の思い出 | <p>【知識・技能】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読み、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。</p> <p>【表現】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。</p> <p>「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。</p> |

3. 評価

(1) 内容および方法

| | 評価の内容 | 評価の方法 |
|----------------|---|----------------------|
| ①知識・技能 | ・学習内容をどれだけ理解できているか ・理解したことを活用できるか。 | 定期試験 授業内で行う小テストなど |
| ②思考・判断・表現 | ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を通して、自ら「問い合わせ」をもち、課題を発見し、考え、表現し、伝えることができたか。 | 定期試験 文章表現、口頭表現など |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | ・ワーク等の副教材などを工夫して学習に有効活用できているか。 ・学習によってどのような変容が見られたか。 | 学習活動全般 学習の振り返りなど |

(2) 観点と評価の関係

| | | | 評定 |
|---|---|---|----|
| A | A | A | 5 |
| A | A | B | 4 |
| A | B | B | |
| A | A | C | |
| A | B | C | |
| B | B | B | |
| B | B | C | |
| A | C | C | |
| B | C | C | 2 |
| C | C | C | 1 |

<評価の注意事項>

国語では、話す・聞く・読む・書く4つの技能と授業に取り組む姿勢を総合的に評価するため、定期試験のみに向け努力すればいいというわけではありません。

つまり定期試験で満点を取り「知識・技能」・「思考・判断・表現」がともにA評価であっても、章末評価シートやノート、ワークなど「主体的に学習に取り組む態度」がBまたはCの場合、評定が「5」にはならないということです。定期試験以外の評価が重要であるという認識をもち、日頃から学習に打ち込んでほしいと思います。

4. 教科に関するアドバイス

国語はすべての教科・実生活の土台にあたる教科です。日々の生活の中で日本語に触れない日はないと思います。国語の力を伸ばすためには、常に自分の考えを持つことが大切です。そのためには話をしっかりと聞く「聞く力」、相手の意図を汲み取る「読む力」が必要になります。また、自分の考えを持っていても、伝わらなければもったいないです。聞き手にわかりやすく伝えるためには、語彙を豊かにし、より良い言葉を選択する「話す力」が必要です。

日常会話から「語彙」を意識して生活し、授業内では日頃以上に「語彙」を意識して取り組み、自分の意図を正確に相手に伝えるための努力を惜しむことのないようにしていきましょう。

